

ハリス理化学館同志社ギャラリー1第12回企画展
同志社大学地学研究会創立50周年記念

新島襄が 感じた地球

2017年
5月16日(火)～7月9日(日)

会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室

開館時間：10時～17時 休館日：月曜日

主催：同志社大学地学研究会・同志社社史資料センター

入場無料



絵：上中望生



天球儀 1701年
同志社大学図書館蔵



測量術メモ
新島襄筆
同志社社史資料センター蔵

遠目鏡
同志社社史資料センター蔵

数学ノート 新島襄筆
同志社社史資料センター蔵

測量術メモ

新島襄、世界を見聞する

同志社の創立者新島襄が生まれたのは、1843年(天保14)です。黒船が来航するちょうど10年前でした。幼少年期の新島は、武士の家に生まれた跡取りとして、武芸、勉学に励み、蘭学等を通じて海外の自然科学も学びます。また同時期に、キリスト教や欧米諸国の文明に関する情報に触れたとされます。こうした情報は新島を刺激し、より具体的な学びへの欲求を刺激し、行動を促しました。これが、21歳の時に実行した函館遊学であり、その後敢行した海外への密出国でした。

21歳まで殆どの時間を江戸で過ごしていた新島にとって、江戸を離れて見聞した事柄すべてが彼の中の世界を広げていきました。そうした事柄を新島は終生日記やメモに書き残しました。また、密出国後アメリカに到着し、この地の中・高等教育機関で学ぶ機会を得ることになりました。その学びの内容は、数学と自然科学が多くを占めましたが、キリスト教と学問の関係を学ぶことでもありました。こうした経験は、新島の帰国後の学校運営に活かされました。同時に、新島個人の行動の中にもアメリカでの学びの影響が見られます。そのひとつに地質学への興味がありました。新島がしばしば、鉱物や化石の標本に興味を示していたことが、彼の書き残した日記から窺えます。

キリスト教主義学校である同志社と地質学

新島は帰国後の1875年(明治8)同志社英学校を開校しました。この英学校は、いわゆる中等教育機関レベルの学校として始まっています。よって、実施予定の科目は、人文科学、自然科学、そして社会科学も含んだ広く深く学ぶ内容で構成されています。その内容を見ると、英学校開校のために京都府に申請した資料に、実施予定科目として「地質学」が挙げられていました。開校後もいわゆる普通教育を実施する学校では地質学に関する科目が実施されていた形跡があります。新島のまなびの経緯を考慮すると、単に学習内容としての重要性だけでなく、学校教育にも深く関連していたことが窺われます。

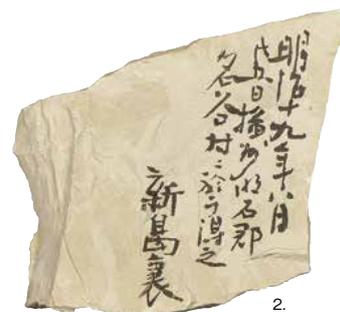
こうした、学則上における地質学との関連に加えて、学生の地学に関する課外活動代表として50年の歴史を紡いできた団体が、同志社大学地学研究会(Doshisha Earth Science Association)です。ここで言う地学とは地球科学の別名で、地質学、鉱物学、古生物学、さらに気象学や天文学などを含む学問分野で、地学研究会の活動からその内容と意義を知ることが出来ます。

地学という学問をキーワードとして学校の歴史を振り返るとき、学術的意義だけでなく、建学の理念、教育理念、学校を取り巻く社会的影響、宗教観など多様な観点から学校を知る機会となります。本展では、一人の人間のまなびの軌跡を踏まえて、学校教育の重要要素として、あるいは、学生の課外における学究活動としての地球科学の意義と意味を考えます。これを踏まえて、地学研究会の50年のあゆみを辿ります。

例えば、世界というものは、当初は暗黒の大海の下の目に見えない、何も備わっていないものとして姿を現す。その後、光がもたらされ、大地が現れ、植物が創造される。やがて動物がこれに続き、その最高位に人類が存在する。こうしたことすべてが、地質学的記録と一致するのである。

The world, for instance, is first represented as invisible and unfurnished beneath a dark ocean. Then light is brought in, the land emerges, and plants are created. After a time animals follow, of higher and higher grades, with man at the head. All this accords with the geological record.

新島が Edward Hitchcock, *The Religion of Geology and its Connected Sciences*, Crosby, Nichols, Lee & Company, 1860, p.545 の中で印をつけたと考えられる箇所



1. アンモナイト化石 中生代白亜紀 個人蔵
2. 新島襄が採集日時と場所を記した植物化石同志社史資料センター蔵
3. 『断層』1号 1968年同志社大学地学研究会蔵
4. 『地質構造図』 新島襄 筆同志社史資料センター蔵

公開講演会 (聴講無料、事前申込不要)

タイトル「新島襄の地球」 講師：林田明氏(同志社大学理工学部教授)
日時：2017年7月1日(土) 13時～
会場：明德館1番教室(同志社大学今出川キャンパス)

展示説明会 (参加無料、事前申込不要)

担当：同志社大学地学研究会、同志社史資料センター
日時：5月21日(日) 13時～、15時～ / 7月1日(土) 公開講演会終了後
会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室

お問合せ先：ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室 TEL: 075-251-2716
ギャラリーホームページ：<http://harris.doshisha.ac.jp/>

